

第1学年 英語科学習指導案

日時 平成15年10月3日(金)5校時

場所 1年5組教室

学級 1年5組 (男子17名、女子19名)

指導者 瀬川勝司

1 単元名 Unit 7 アメリカの学校から (東京書籍 New Horizon Book 1)

2 単元について

(1) 生徒について

生徒は初めての英語学習に明るく意欲的に取り組んでいる。比較のおとなしい学級であるが、音読やペアワークの意義を理解して活動しようとする姿が見られる。普段の授業では文法などの説明はできるだけ少なくし、暗唱することを重視して指導しているが、学習がすすむにつれて発音やつづりなどに抵抗感を示す生徒も出てきている。

これまで、観察、単元テスト、定期テストを通して評価してきたが、この学級は個人間の定着の度合いが比較的大きい。要点のみの指導ではなく個々の学習スタイルに応じたきめの細かい指導を構想していきたい。

(2) 教材について

Unit 7は「異文化理解」「情報教育」を意識した単元である。Unit 6のオーストラリアに続いて、アメリカ合衆国に話題を広げる。言語材料はUnit 7-①ではWhat time...?の文とその応答、②ではwho...?の文とその応答、③、④ではHow many...? How long...? Do you study any foreign languages? What do you do after school?というこれまでの学習で扱った疑問文を使っての質問を扱う。生徒はこれまでに「曜日のおねだり(What day is it today?)とその応答を学習している。今回「時刻」と天気のおねだりとその応答を学ぶことにより、現在の状況についての表現を拡充することができる。また、Who's this?については、以前のWhat's this?の関連ともいえる表現であり、未知の人物についての話題を展開する上で重要な表現である。本Unitはインターネットを利用して外国の情報を得る疑似体験ができるようになっているが、身近なことについて質問し、相手をより深く理解しようとするコミュニケーション能力を育てることにも適した教材となっている。

(3) 指導構想

この単元は、世界の都市の時刻・天候をおねだり、アメリカの中学校のホームページを眺めるという場面で、ある人についてWho's this?と質問したり答えたりする会話を自然な形で導入している。この教科書の内容をよく理解させ、基本文型や基本語彙を音読練習、パンプラクティスなどを用いて、言葉が自然に口をつい

てくるまで繰り返して練習、暗唱させたい。そこに生徒独自のものを付け加えながら身近な事柄について表現できるように発展させたい。学習内容を確実に定着させるため、話しやすい相手とペアを組ませる、補助プリントを用意したりするなどの配慮をしていきたい。

生徒の学習達成状況について、これまで言語活動などの観察、ノートやプリントのチェック、単元テスト、定期テスト等で評価してきている。評価場面や評価方法、生徒の支援方法をより明確化していきながら授業を構想していきたい。

3 単元目標

- ・ 現在の時刻や天気についてたずねたり、それに答えたりすることができる。
- ・ 人について、誰であるかたずねたり、それに答えたりすることができる。
- ・ 学校生活についてたずねたり、それに答えたりすることができる。

4 単元の指導・評価計画（9時間）（☆は評価のための達成度テスト）

時	学習活動	評価基準と評価方法			
		関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化の…
1	時刻と天候を尋ねたり、答えたりする。		時刻や天候を尋ねる言い方を使い、適切に応答できる。 (観察、授業中)		時刻や天候を尋ねる言い方の構造と意味を理解している。 (テスト、☆定期テスト)
2	世界各地の時差について聞き取る。	世界の時刻や天候について積極的に聞くようとしている。 (☆観察、授業中)		世界の時刻や天候について正確に聞き取ることができる。(テスト、定期テスト)	
3 本 時	「だれ」と尋ねるときに who を用いることを知る。		◎ who を用いて第三者のことについて適切に応答することができる。(観察、授業中)		Who を伴う疑問文の構造と意味を理解している。(テスト、☆定期テスト)
4	Who の使い方に慣れるとともにインターネットやホームページについて理解する。		◎ ALT の先生などと適切に対話することができる。(観察、授業中)		
5	文化が異なる国の学校生活について理解する。			アメリカの学校の外国語の学習の様子や放課後の生活について正確に読み取るこ	

				とができる。(質問、授業中)	
6	文化が異なる国の学校生活について理解する。	「放課後何をしているか」の問いに対して間違いをおそれず答えようとしている。 (☆観察、授業中)			Some, any の使い分けを理解している。 A member of の意味と語順を理解している。 (テスト、☆定期テスト)
7	学校を紹介する英文を書く。	自分の中学校を紹介する英文を積極的に書こうとしている。 (観察、授業中)	都道府県、創立〇年、生徒数、教員数などの基本情報を英文で適切に書くことができる。 (観察、授業中)		
8	起床から就寝までの1日の生活を英文で書き、発表する。		起床から就寝までの1日の生活を適切に話すことができる。 (観察、授業中)		「～時に」の言い方に at ...があることを理解している。 (テスト、☆定期テスト)
9			◎ 1日の生活について友達に適切に質問することができる。 (☆観察、授業中)	友達の発表内容を適切に聞き取ることができる。 (ワークシート、事後)	

5 本時の指導

(1) 授業の構想

本時は、who の文と応答の形、意味、用法の学習と会話を展開する力をつけるためにある人を取り上げ、氏名、職業等を伝える活動を行う。語彙や基本文型を復習して教科書本文の暗唱につなげ、その後ペアワーク等で言語活動へと発展させる。これまでに学習した三人称単数現在 S や I see. / Really? / Is that right? 等の表現を想起させながら自然な会話作りをさせたい。

導入部分では前時の内容(What time is it? How is the weather?)の問答を行う。テンポ良く行い、リラックスした雰囲気作りに努めたい。

展開部分では前半部分では本文の内容理解、そして音読と教科書を土台とした指導を、音声面を重視しながら行いたい。後半は教科書本文を基にして、ある人についての対話活動を行う。教科書全体を扱うには時間がかかるのでポイントを絞って正確に音読、暗唱ができるように段階的にレベルを上げていくように工夫する。誤りをおそれる傾向が見られるので、ペアを組むときに話しやすいメンバーにして緊張感を取り除いたり、活動の意義を伝えたり、お互いのよさを指摘させたりして活動に意欲を持たせたい。

終末では、自己評価と相互評価で学習の振り返りを行い、達成感と今後の学習に対する意欲を高めていきたい。

(2) 目標

Who...?の文と応答の形・意味・用法を理解し、ある人について、誰であるか尋ねたり、それに答えたりすることができる。

(3) 展開

段階	学習活動	生徒の活動	○ 指導上の留意点 ● 評価の観点 ◆支援の方法
導入	1 あいさつ (1分) 2 前時の復習 (5分) 3 学習課題の確認	I'm OK. I feel sick.など。 What time is it now? How's the weather? 【「この人はだれ」の質問と答えができるようになる】	◆ 楽しく学習する雰囲気を作れるよう絵や単語カードを用いて教師と生徒の interaction を図りながらすすめる。
展開	4 新出文の導入 5 新出語句の導入 6 本文の内容理解 7 本文の音読	設定された場面で who の疑問文とその答え方を理解する。 ① 有名人のシルエット PC を使用して口頭で導入する。 ② p.60 の基本練習をする。 ① 発音練習をする。 ② シートに書く。 ① PC を使い口頭で場面の導入をする。 ① 本文を正しい発音やイントネーションに気をつけ音読する。	○一方的に聞かせるのではなく、生徒と interaction をしながら進めていく。 ○モデルに続いて練習する。 ○意味と発音を直接結びつけるだけでなく、語の持つイメージを生かして語句を習得させる。 ○基本文にしぼって内容を理解する。全体は扱わない。 ● 内容を理解しているか。 ● 正しい発音やイントネーションで音読しているか。 ◆個別に指導するときには、リズム

	8 本文をもとにペアワークで自分たちなりの対話練習をする。	② 質問と答を繰り返し練習して読ませる。 ① 職業名の音読練習をする。 baseball player sumo wrestler singer, entertainer ② シルエット PC を使いながらペアワークで対話練習をする。 ③ ペアワークで必要になった他の表現を復習する。 I don't know. Is that right? ④対話を発表し、その発表の様子について話し合う。	を意識した練習をさせるようにする。 ◆ 自然な会話になるように、ある程度の会話の流れを提示する。 例 A: 見て。彼/彼女を知っていますか? B: 誰ですか? A: OOです。 A: 本当ですか? ● 英文を見ないで表情や語調などを意識して対話できる。 ● 黒板にある「会話の流れ」を見ながら対話できる ● 友達の発表を聞いて評価をすることができる。
終末	9 本時の学習を振り返り、課題の達成状況を確認する。 10 あいさつ	自己の学習の状況を振り返り、分析的にまとめながら記述する。 あいさつをする。	○ 自己の学習状況を振り返るための視点を与える。 「対話文で理解できていないところはどこか、読むことができないのはどこか、自分にはどんな練習が必要かを記録しておきましょう。」

6 評価規準の設定 (本時に関連するもの)

判断基準 評価規準	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C) 生徒への具体的な対応・手立て
疑問詞 who を用いて、第三者のことについての情報を得たり、尋ねられたら答えたりすることができる。 (表現)【観察】	相手の質問に対して、その人の氏名、職業等の他、情報を付け足して述べることができる。	相手の質問に対して、その人の氏名、職業を述べるができる。	質問のしかた、答え方についてのモデルをもう一度繰り返し指導する。
人物について「誰」と質問する表現として who があることを理解できる。 (言語文化)【テスト、定期テスト】	これまでの疑問詞と区別しながら who を含む疑問文とその応答文の構造を正しく理解している。	これまでの疑問詞と区別しながら who を含む疑問文とその応答文の構造を概ね理解している。	補助プリントを用意して、基本文の暗唱をさせる。